

7 がん予防

基本的な考え方

がんは、一般的に遺伝子の突然変異によりがん細胞が増殖し、他の組織の境界に侵入したり、または転移したり、身体のいたるところで増大することにより生命を脅かす病気です。昭和56年以降、日本人の死亡原因の第1位となり、全死亡に占める割合は茨城県・全国ともに約3割となっています。

また、45歳から64歳までの入院の原因は、がんが最も多いとされ、壮年期の重要な健康問題といえます。

本市では、平成21年の全死亡数371人に占めるがんによる死亡数は128人で34.5%（茨城県保健福祉統計年報より）となっています。がんの部位別にみると、肺がん（気管、気管支含む）が第1位となっていて、それ以外では、胃がん、大腸がんによる死亡が上位を占めています。このため、平成23年7月に「がん対策室」を設置し、がん罹患率と死亡率の軽減に取り組み、地域におけるがん予防を推進します。

重点目標 がん予防に必要な知識を身につけ、生活習慣の改善に取り組みましょう！

がんの発症や進行には、野菜・果物の摂取不足や塩分・脂肪の過度な摂取などの食習慣、喫煙、飲酒といった生活習慣が強く関連していることが認められることから、循環器疾患や糖尿病だけでなく、がん予防対策としても生活習慣の改善が重要とされています。

行動目標 各種がん検診受診者の増加

がん予防として、生活習慣の改善とともに、がん検診の受診も重要です。がんにならないように生活することを一次予防とするならば、早期発見・早期治療のためのがん検診は二次予防であり、積極的な受診が必要になります。

本市では、胃がん・肺がん・乳がん・子宮がん・大腸がん・前立腺がんの各種検診を実施しています。がん検診では、特定の年齢に達した方に対して子宮頸がん、乳がん及び大腸がんについてがん検診推進事業を実施し、特定の年齢の方を対象に検診手帳及び検診費用が無料となるがん検診無料クーポン券を配布しています。

また、がん検診の結果、精密検査の受診が必要と判定された場合には、速やかに精密検査医療機関を受診することが必要です。

目標	指標	現行水準	目標水準 (H27)
がん検診の受診者増加	胃がん検診受診率	38.0%(H21)	46.3%以上
	肺がん検診受診率	21.9%(H21)	26.2%以上
	大腸がん検診受診率	32.3%(H21)	38.4%以上
	乳がん検診受診率	24.9%(H21)	30.8%以上
	子宮がん検診受診率	28.7%(H21)	35.4%以上

◇がんについての状況

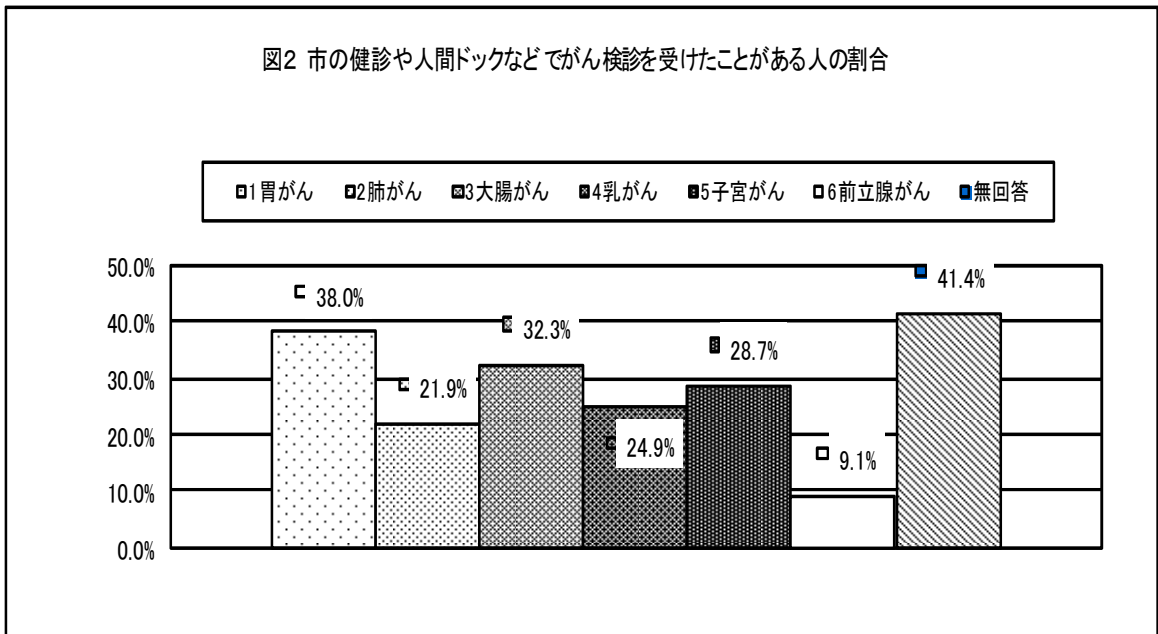
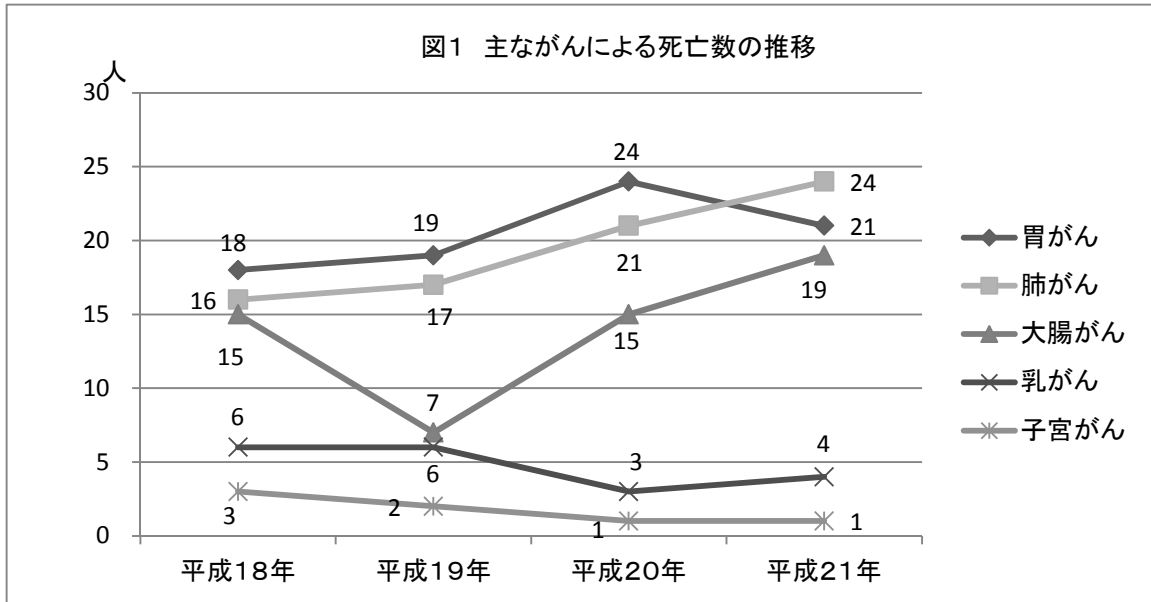
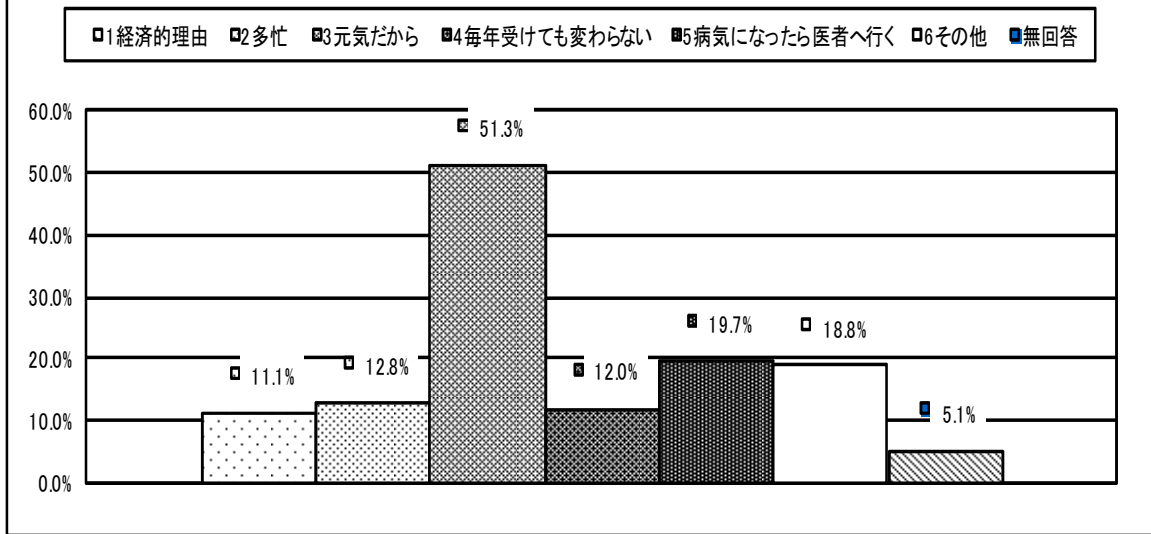


図3 健康診査を毎年受診しない理由



市民の取り組み

【女性（10歳以上）】

- 子宮頸がんワクチンの接種をしましょう。

【女性（20歳以上）】

- 子宮がん検診及び乳がん検診を定期的に受診しましょう。

【成人期】

- がん予防の知識をもち、日頃から生活習慣の改善を心がけましょう。

【壮年期以上（40歳以上）のみなさんに】

- 年に1回は、胃がん、肺がん、大腸がん検診を受診しましょう。
- 要精密検査となった場合は、専門医で必ず受診しましょう。

市の取り組み

【がん対策室の取り組み】

- がん検診受診率の向上のため、広報誌、パンフレットや出前講座等を活用し、検診の重要性についての普及啓発を進めます。
- 講演会等を開催し、がん予防の知識の普及啓発に努め、がん検診の積極的な受診によるがんの早期発見・早期治療を促進します。
- がん検診を受けやすい環境づくりのため、検診の日時・場所・費用・申込み方法等について、個別通知、広報誌やホームページ等で情報提供を行います。
- がん検診で「要精密検査」となった方に対し、精密検査の受診指導を徹底します。
- 子宮頸がんの予防対策として、がん発生の主な原因とされるヒトパピローマウイルス（HPV）の感染防止に効果があるとされるワクチンの接種の普及啓発を進めます。

注：子宮頸がん予防ワクチンは子宮頸がんの治療薬ではありません。ワクチン接種に加え、正しい子宮頸がんの知識を持ち、性感染症の予防に注意し、何よりも早期発見のための検診を定期的を受診することが重要です。